佛書解說大辭典

大東出版社藏版

佛教大学研究所図書館
藏書章

昭和53年1月10日　初版印刷
昭和53年1月20日　初版発行

仏書解説大辞典　第十三巻　増補二
¥ 12,000

版権
所有

編纂者　丸山孝雄
発行者　岩野眞雄
印刷者　澤村嘉一

発行所　株式会社　大東出版社

東京都文京区白山1丁目37番10号
電話（03）816-7607

印刷所　凸版印刷株式会社　製本　文麗社　3515-050013-4384

「解説の部」増補一・二完成に際して

仏書解説大辞典「解説の部」十一巻（昭和八―十年刊行）に続く増補の編纂に着手したのは昭和三十九年五月であった。同年「解説の部」十一巻の再版がなされたが、初版の第十二巻「仏教経典総論」（小野玄妙編）は、増補編纂のため各巻の内容均斉の都合上、割愛された。そして「増補編纂要解」に記すごとく、新たに第十二巻増補一（アーソ）、第十三巻増補二（ターワ）の二巻に分けて刊行することとなった。十有余年の歳月を費やして昭和五十年六月、まず増補一を刊行し、爾来二ヵ年、漸くにして今、増補二を世に送る。本辞典増補編纂の事業は永劫に続くものであるが、この度の増補編纂は増補二の刊行を以て完成をみる。それ故ここに編纂の経緯を述べ、関係各位に対し深く感謝の意を表したい。なお、増補一・二の完成を機に「仏教経典総論」を別巻として再刊することとなった。

増補の編纂にあたっては前立正大学長坂本幸男（日深）博士ならびに東京大学名誉教授中村元博士を顧問に仰ぎ、斯学の長老であられる前仏教大学長惠谷隆戒博士、日本学士院会員東北大学名誉教授元立正大学教授金倉圓照博士、前駒沢大学総長榑林皓堂博士、日本学士院会員京都大学名誉教授塚本善隆博士、日本学士院会員東京大学名誉教授辻直四郎博士、元高野山大学長元密教文化研究所長中野義照博士、京都大学名誉教授長尾雅人博士、東洋大学名誉教授西義雄博士、日本学士院会員九州大学名誉教授干潟龍祥博士、前大正大学長早稲田大学名誉教授福井康順博士、元竜谷大学長竜谷大学名誉教授星野元豊博士、日本印度学仏教学会理事長東京大学名誉教授宮本正尊博士、元日本学士院会員元大谷大学長元大谷大学名誉教授山口益博士、花園大学長山田無文老師の諸先生の御賛助を忝うし、関係十二大学の御協力のもとに、増補の編纂を推し進めることができた。

着手以来十三年、この間、諸先生ならびに各大学・図書館には御懇篤なる御教示と特別の御高配をいただい

た。解説原稿を御執筆下された先生方は、増補一については二百七十二名、増補二については二百六十名、総計のべ五百三十二名の多きにのぼり、大学紛争等にて大学・図書館の利用のままならぬ時代にも、困難を克服して御執筆下さった。とりわけ書目選定、解説原稿校訂ならびに校訂補佐の諸先生には、長年月の間一貫して、変らぬ御懇情と御尽力を賜わった。幾多の苦難を乗り越え、かくて今、この度の増補完成の日を迎えることができたのは、ひとえに如上の諸先生の御教導とお力添えの賜物であり、ここに深く感謝の意を表する次第である。

顧問のお一人である坂本幸男（日深）博士、御賛助を仰いだ中野義照博士ならびに山口 益博士、書目選定の労をとられた香月乘光師、執行海秀博士および長澤實導博士、またこの増補編纂事業の発案者たる岩野眞雄前社主には、増補完成の日を待たずして遷化された。御生前に刊行できなかったことは痛恨の極みであり、身の力の及ばざるところ慚愧の念に堪えない。この書を捧げ、謹んで報恩感謝の誠を致したい。

坂本先生亡き後もこの事業を推進し遂行できたのは、顧問中村 元先生の懇切な御指導と、賛助長老諸先生の温かい慈恩の賜である。御懇情に対し、衷心より深甚の謝意を表するものである。

また、矢崎正見先生には編集の手解きを、畏友佐々木孝憲・芹川博通の両氏には有益な助言をいただいた。煩雑な編纂事務については全般にわたり、岩田良三・仲澤浩祐・伊藤立教・高山博史の四氏の献身的な扶左を得た。七千三百余におよぶ増補書目の整理は村尾郁代女史の尽力による。更に、森 藤子・福島由紀子両女史には校正を、東京大学および立正大学の学部・大学院の学生諸君には、書目カード・原稿等の整理と校正を依嘱し、字体・仮名遣いに至るまで細心の配慮を得た。特に牧野博義・高橋謙祐（幸男）・下川邊季由の三君には増補一・二にわたり、書籍の調査から校正に至るまで助力を得た。岩野喜久代社主・山本健純社長はじめ大東出版社の関係者には、遅々として進まぬ編纂に終始雅量を示し勧助せられた。これら有縁の方々の協力なしに

は、この編纂事業のまとめは成しえないところであり、ここに記して心から感謝する次第である。

なお校正は、特殊なものを除いて、すべて編集部が行なった。万遺漏なきを期したが、書目の不備・誤植等があれば、それらは挙げて私の責めを負うべきところである。江湖の御寛恕を請い、御教示と御斧正を願う次第である。

昭和五十二年九月十三日

編纂主任　丸山孝雄

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

仏書解説大辞典第十三巻増補二編纂関係者

〔五十音順・敬称略 字体は署名による〕

編纂顧問

坂本幸男（日深）
中村元

書目選定

荒木有信（大正大学）
石川良昱（花園大学）
臼井元成（大谷大学）
横超慧日（大谷大学）
香月乗光（仏教大学）
執行海秀（立正大学）
平春生（竜谷大学）
橘恭堂（花園大学）
堤玄立（竜谷大学）
長澤實導（大正大学）
西義雄（東洋大学）
荷葉堅正（大谷大学）
羽田野伯猷（東北大学）
平川彰（東京大学）
牧田諦亮（京都大学）
水野弘元（駒沢大学）
宮坂宥勝（高野山大学）

解説校訂

石田充之（竜谷大学）
稲葉秀賢（大谷大学）
臼井元成（大谷大学）
勝又俊教（東洋大学）
信樂峻麿（竜谷大学）
羽田野伯猷（東北大学）
平川彰（東京大学）
藤原幸章（大谷大学）
牧田諦亮（京都大学）
松長有慶（高野山大学）
水谷幸正（仏教大学）
水野弘元（駒沢大学）
壬生台舜（大正大学）
宮坂宥勝（高野山大学）
宮崎英修（立正大学）
柳田聖山（花園大学）

解説校訂補佐

荒牧典俊（京都大学）
池田魯参（駒沢大学）
氏家昭夫（高野山大学）
江上浄信（大谷大学）
岡亮二（竜谷大学）
岡村大（東北大学）
沖本克己（東京大学）
京戸慈光（大正大学）
黒田覚（旧姓北山）（竜谷大学）
古賀英彦（花園大学）
坂部明（東京大学）
宗兼利（竜谷大学）
長島尚道（大正大学）
西田圓我（旧姓鳴谷）（仏教大学）
福田亮成（東洋大学）
藤村隆淳（高野山大学）
藤善眞澄（京都大学）
古坂紘一（東北大学）
眞柴弘宗（東洋大学）
松濤誠達（東京大学）
松原光法（東京大学）
松村壽巌（旧名壽）（立正大学）
松本照敬（東京大学）
蜜波羅圭之介（東北大学）
頼富本宏（京都大学）
嬰木義彦（竜谷大学）

〔所属大学は書目選定・解説原稿校訂当時のものである〕

解説執筆者

阿部慈園
浅井円道
浅井弘妙（旧名真順）
浅井成海
芦田獻之
穴田省二
荒川正憲
五十嵐大策
井上恵樹
井上淳道
伊川孝亮
伊藤浄厳
伊藤隆寿
伊藤立教
伊藤唯真
伊藤猷典
池田魯参
石井修道
石川昱
石田勝龍
石原芳文
石田雅文
一磯田熙信
一郷正道
稲津紀三
稲谷祐宣
今井秀周
今枝二郎
今谷明
岩田良三
上田正

上野正俊
植田観樹
氏家昭夫
後路薫
小田綾子
馬上浄信
江藤是秀
遠藤充久
遠川乗
小川一道
小川達
小川陽一
小沢憲珠
小野蓮明
小野澄
小塚幾
越智淳仁
大内文雄
大北裕生
大桑斉
大沢聖
大田利生
大谷章
大野哲夫
大野俊覧
大南栄人
大森昇
庵敏文
丘谷行亨
山田新
岡田久子
岡田敬一
沖和史
沖本克己
音羽隆司

鍵主良敬
金山尚道
金子寛哉
兜木正亨
蒲池義秀
釜瀬春鳳
上村勝彦
亀山正廣
苅谷定彦
川口重仁
河野一雄
冠賢
木内堯央（旧名央）
木村宣彰
木村俊彦
木村英憲
木村光孝
木下純一
木川肇
北村行聡（旧名遠）
北山（旧姓黒田）
久住謙是
久飛田（旧姓）
工藤成樹
日下弘俊（旧名均）
草野有文
倉田治夫
黒田覚明
黒田雅明

小坂機融
小橋麟瑞
小林明雄
小林昭英
小林光紀
小松邦彰
小河俊一
古賀英彦
古藤尚光
呉光孝
後藤淳学
光地英鳳
近藤淳（旧姓名中川淳明）
佐々木恵精
佐藤達玄
佐野俊導
斉藤寿一
斉藤敬一
坂詰秀
坂輪宣明
酒井得元
酒井晃
清水要
椎名宏雄
静慈（旧姓日和田）圓
篠崎知勝
柴田嶺仲
島川邊季由
下須仙
菅藤隆晃
沼文美
末木士

杉浦慧
杉本卓洲
芹川博通
祖父江章子
田賀龍彦
田上太秀
田中昭雄
田中良祥
田門照忍
平史
高橋祐功
高橋謙（旧名幸男）
高橋弘壮
高橋尚夫
高見寛恭
高山博史
竹内成泰
竹村哲男
竹中了男
竹内智牧
武内範男
龍池明生
龍口泰修
谷端昭夫
谷本啓祥
塚本祐子
辻学真
辻本祐郎
土田龍太
土屋大乗（旧姓荒戸）

坪根烈次　手塚寛道　土井一顕　藤堂恭俊　殿平善彦　苫米地誠一　中島法昭　中島博　中條暁秀　中村明宣　中澤浩祐　仲井規男　永島尚道　長目祐伸　夏井浄　根村耀昌　野本覚成　野谷川小四郎明　長谷川幸雄　八田島理　早島一宗晋（旧名幹夫）　林是　林智康　原田賴子　原野覺　日野信　東大喜　元慶　平井榮　平井俊　平井宥　平野修

廣瀬敏　深田慈　深田博孝　福島光成　福田亮　福永勝美　藤村隆淳　藤原幸章　藤原康裕　舟橋尚哉　古川雄悟　古坂紘一　辺見精一　細川行信（旧姓栗原）　堀隆　堀池春峰　本田俊道　本多得爾　本間弘之　眞柴裕史　真鍋宗照　牧野博義　牧田諦亮　益田兼房　増田治人　町浦順一　松岡宗文　松長淳慶　松村壽（旧名顯）　広川堯

松本孝朗　松本史雄　丸山淳子　三澤容　三友健（旧名苔雄）　三友量順（旧名順）　水谷幸正　水田義一　三桐慈海　蜜波羅圭之介　蓑島和潤　宮川了篤（旧名一敬）　宮坂宥勝　村石恵照　村上充生　村上祐佐　毛利田悠昇　森貞雄道　森祖道行　森正隆　森保　八木信佳　矢崎信見　安富正哉　山端昭道　柳田聖山　由木義文　横井覺道　村恒

吉田見悠　吉村雅人　吉野耕史　吉田生而　吉江忠了　吉津宜英　吉田収　北村行（旧名聰）遠　北川前肇　木川敏雄

編纂主任

渡辺宝　渡邊信陽　和田謙寿　賴富宏　吉元信行　丸山孝雄

編集者

伊藤立教　岩田良三　佐々木孝憲　芹川博通　高橋典之　高山博史　仲澤浩祐　宮下澄夫　村尾郁代　矢崎正見　山本健純

編集補佐

内藤善久　遠山行治　川上充

草野弘均（旧名均）有　小林啓明　島田聖雄　下川邊季由　高橋謙（旧名幸男）祐　高橋法子　土屋大乗　土井一顕（旧姓荒戸）　林是一（旧名幹夫）晋　久由利子　久光利枝子　福島由紀子（旧姓池上）　本仏澄子（旧姓瀧原）　牧野博義　宮崎英一　森藤正子　森行

刊行代表者

岩野眞雄　岩野喜久代

印刷　凸版印刷株式会社
製本　文麗社

増補編纂要解

一、本書は、仏書解説大辞典の初版本「解説の部」十一巻（昭和七年十月三十一日までに書写・刊行された仏教典籍を収録）の増補である。

二、この増補は、第十二巻増補一（ア―ソ）および第十三巻増補二（タ―ワ）の二巻よりなり、次の範囲の仏教典籍ならびに仏教に関係の深い書籍総計七千三百余書目を両巻に採録して解説した。

なお、初版の第十二巻「仏教経典総論」（小野玄妙編）は、「解説の部」増補のため内容均斉の都合上、昭和三十九年「解説の部」十一巻再刊の際割愛された。そしてこの度、増補一・二の完成を機に「仏教経典総論」を別巻として再刊することとなった。

1　昭和七年十一月一日以降昭和四十年十二月三十一日までに本邦において書写・影印・出版された邦語および漢文による単行本ならびに叢書・全集所収の仏教典籍。

2　インド哲学・インド文学の分野で、仏教に関係深い書籍。

3　宗教学の分野で仏教に関係深い書籍。

4　その他、仏教に関係深い書籍。

三、増補所収の書目は、大谷大学、京都大学、高野山大学、駒沢大学、大正大学、東京大学、東北大学、東洋大学、花園大学、仏教大学、立正大学、竜谷大学の十二大学附属図書館の蔵書を主とし、更に国会図書館の蔵書カードや、金沢大学附属図書館編「暁烏文庫仏教関係図書目録」（昭和三十八年三月）、駒沢大学図書館編

「新纂禅籍目録」（昭和三十七年六月）その他の書籍目録ならびに個人の蔵書を参照して、関係各大学および編集部がこれを蒐集・選定した。

四、項目は、書名を以て項目名とし、これを本項目と参照項目とに分けた。

1　冠称（角書、割書など）および副題を含む書名の具名を以て本項目とした。

2　冠称を除く書名のヨミの配列箇所に参照項目を掲げ、——→印を付して本項目を参照させた。

【例1】昭和會本 勝鬘經義疏 ——→ 佛解⑫ 昭和會本勝鬘經義疏（仏書解説大辞典第十二巻増補一の「昭」の項参照の意）

【例2】南山進流 聲明の研究 ——→ 佛解⑬ 南山進流聲明の研究（仏書解説大辞典第十三巻増補二の「南」の項参照の意）

3　書名は原則として内題（扉または本文の初めの題名）に拠った。

4　書名の字体・仮名遣い・送り仮名は原典通りとした。但し、原典の字体混淆の場合、昭和二十一年十一月以前の書名は旧字体、それ以後のものは新字体に統一をはかった。

5　項目の配列は、首字のヨミの五十音順による。同じヨミの漢字は、漢和辞典の通則に従い、部首順および画数順に配列した。仮名は、平仮名・片仮名を同一グループとし、同じ音の漢字を首字とする項目の後に掲げた。但し「日本」は「ニッポン」「ニホン」を同一項目とし、「ニッポン」の項に掲載した。

五、増補の解説は、概ね初版の「解説の部」十一巻の形態を踏襲し、❶書名のヨミ　❷巻数　❸存欠　❹著者名等　❺発行年　❻内容解説　❼注釈書・参考書類　❽写刊年代　❾現所蔵者　❿発行所名の十項に分けて行なったが、時代の推移により各項の内容を改めた点もある。その要領を項別に示せば次の通りである。

❶ **書名のヨミ**は、日本音をヘボン式ローマ字で標記した。同一書名に清音・濁音等異なったヨミのある場合は（　）内に別ヨミを記した。

❷ **巻・冊数**のほか、書籍のサイズ、図版・本文・索引等の頁数を記した。

❸ **存欠**の項には、叢書・全集等に含まれるものについて、その名称と巻次を記した。なお「欠」とは、❾のゴシック記載大学・図書館に、解説執筆時において当該書の所在不明なることを示す。

❹ **著・訳・編・校注者名**の字体は原典通りとし、（ ）内に生歿年を西暦で記した。

❺ **発行年**は「十」および「年」を省き、（ ）内に西暦を記した。

❻ **内容解説**の要点は次の通りである。

1 当該書の主題、主要な篇・章・節等の主題と内容を紹介し、その書の大綱を記す。

2 当該書の特色、即ち、その書がどのような資料、方法論により、如何なる観点から主題を論じているか、その特色を記す。

3 訳注書の場合は、所依の原典と翻訳および注釈の特色を記す。

4 文芸作品については、素材の取り扱い方の特色と、その文芸的意義を記す。

5 学術的労作については特に、その書の学問的意義を記す。

6 学術雑誌等所載の、当該書に関する「書評」は❼に紹介した。

7 この項では、原則として新字体・現代仮名遣い・新送り仮名を用いた。但し、固有名詞、引用文など必要な場合、旧字体・旧仮名遣いを用いた。

8 この項の漢数字は、二桁の場合、原則として「十」を用いた。なお「十」を省くときは、特定の項目の解説内で統一をはかった。

❼ **注釈書・参考書類**の項には、参考文献のほか、当該書の「書評」のある場合、その掲載雑誌等の巻次をも記した。また仏書解説大辞典所収の書籍は

佛解 ⑪三〇一d（仏書解説大辞典第十一巻三〇一頁第四段参照の意）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

の如く記して参照に便ならしめた。

❽ **写刊年代**の項には、写本・刊本および写真複製のうち印刷によらぬものの年代を記した。なお所依の原本の年代には㊟を冠した。

❾ **現所蔵者**の項には、所蔵の大学・図書館名および個人名を記した。大学名は、初版本「解説の部」に準じて略符を用い、次の如く略符の五十音順に記した。

京大（京都大学）・高大（高野山大学）・駒大（駒沢大学）・大正大（大正大学）・谷大（大谷大学）・東大（東京大学）・東北大（東北大学）・東洋大（東洋大学）・花園大（花園大学）・仏大（仏教大学）・立正大（立正大学）・竜大（竜谷大学）

解説執筆者（❻または❿の末尾に記載）**の所属大学・図書館名**はゴシックで示した。なお、同一人が複数の大学・図書館所属の執筆者となる場合もあるが、これは当該書の帰属による。

❿ **発行所名**の字体は原典通りとし、住所は地方自治体名にとどめ、都道府県庁所在地は都道府県を省いた。

解説執筆者名は、原則として以上の十項の最後に（　）を付して記した。但し行数の関係から❻の末尾に移した場合もある。執筆者名の字体は署名通りとした。執筆後の改姓・改名は巻頭の執筆者芳名録に掲げ、旧姓・旧名を（　）内に記した。

タ

他師破決集

❶Ta-shi-ha-ketsu-shū. ❷五巻一冊、A5判、本文八〇頁 ❸存、眞言宗全書第二一巻 ❹了賢撰 ❺昭和九(1934)

❻本書は、五巻より構成され、主として教判論に対する他宗学徒の疑難に応答している。例えば、法相宗の得一、三論宗の法隆寺道詮、天台宗の智証大師円珍、安然等の疑難に答え、前三巻に法身説法、鉄塔相承、十住心教判等について論じている。第四巻は、菩提心論、釈摩訶衍論について述べ、第五巻には、梵字悉曇のことを説いている。(北川前肇)

❼〔参考〕(佛解)⑦一一二c ❾立正大 ❿和歌山県・高野山大學内 眞言宗全書刊行會

他力安心義

❶Ta-riki-an-jin-gi. ❷一巻一冊、A5判、本文四〇頁 ❸存、續眞宗大系十四巻 ❹開華院法住(?—1874)著 ❺昭和一三(1938)

❻他力安心を釈名・顕体・要門・釈相・明用の五門に分け、要文については、二文をえらび、往生礼讃、散善義の深心釈に改邪鈔文を加えて詳説し、安心の釈名に所信の法・信の当相・所得の果に分って、性相的解説を試みており、礼讃と対比し、『改邪鈔』では安心を本とし、起行・作業を方便とする三代伝持の相承を明らかにしている。

❼〔参考〕(佛解)⑦一一二d ❾谷大・立正大 ❿東京・眞宗典籍刊行會 (大門照忍)

他力安心の極致

❶Ta-riki-an-jin-no-kyoku-chi. ❷一巻一冊、四六判、本文六九頁 ❸存、大谷光瑞全集第五巻 ❹大谷光瑞(1876—1948)著 ❺昭和一〇(1935)初版

❻光寿会員に対して講演したもので、信心の形式・原理・経路・結果を述べ、仏教が単なる宗教でなく科学であると論じ、因縁果、一切皆空の原理に立って、原語に注意しながら、名号の因、光明の縁、信心の果の関係を説いて、仏教が仏の説いた教えであると同時に、衆生が仏になれる教えである所以を強調している。(大門照忍)

❾谷大 ❿東京・大乘社

他力廻向

❶Ta-riki-e-kō. ❸欠 ❹佐々木鉄城著 ❺昭和三九(1964) ❾竜大 ❿京都・百華苑

他力信仰の極致

❶Ta-riki-shin-kō-no-kyoku-chi. ❷一冊、四六判、本文二七四頁 ❸存 ❹齊藤唯信著 ❺昭和一五(1940)

❻本書は、著者が解信より仰信に到達し、信仰のすばらしさ、即ち浄土真宗について述べられたものである。皆の興味ある霊魂の有無、死後の世界についても仏教的見地より末那識、阿頼耶識を出して説明されている。浄土真宗の知識をいくぶんか聞きかじっているものでも、総括的に整理をして知ることが出来るので読物風で好著である。(小林昭英)

❾谷大・竜大 ❿東京・大東出版社

他力信心聞書

❶Ta-riki-shin-jin-kiki-gaki (or, Ta-riki-shin-jin-no-kiki-gaki). ❷本末二巻二冊、和本二五四粍×一七五粍、本二〇丁・末一八丁 ❸存 ❹覺如(1270—1351)撰

❻覚如の撰とあり、第十八願につき十四問答を設け、六字釈に本覚・始覚不二、あるいは帰命還源説を立てたり、南無をほかに無しと訓じ、「ソモソモ我等カ往生ハ」の和讃を引き、往生の時節を明したり、また三身三諦説を述べ、無碍光如来報身・法蔵比丘応身説を立てるなど特色ある思想が窺われる。撰者、書誌などには問題があろう。(大門照忍)

❾谷大

他力信心の心理学的解明

❶Ta-riki-shin-jin-no-shin-ri-gaku-teki-kai-mei. ❷一冊、B6判、本文一六六頁・附録一六頁 ❸存 ❹調 圓理(1888—1971)著 ❺昭和三二(1957)

❻親鸞教徒であり心理学者である著者が、信仰体験を軽んじた教義研究は所詮観念的思弁や煩瑣哲学に堕するとし、実証論的教義の必要性を説き、その為には他力信心の心理学的構造の解明が必要であるとして、二河譬、二種深信、信の一念、他力廻向等の心理構造、更に四諦・五欲・苦悩等の宗教心理学的意義構造を論じ、附録には夭折された令嬢の信仰が紹介されている。

❾谷大・花園大・竜大 ❿京都・百華苑 (北山 覚)

他力眞實の信心

❶Ta-riki-shin-jitsu-no-shin-jin. ❷一巻一冊、四六判、本文二一六頁 ❸存 ❹住田智見(1868—1938)著 ❺昭和八(1933)初版

❻学徳兼備の著者が、明治四十年から昭和八年までの施本などをまとめたもので、題名は、天親和讃、御文二帖目第三通によったと述べ、相承を重んずる謙虚な姿勢が全三十四章に溢れている。聞法の心得と日常生活における念仏者の仏恩・師恩・国恩・父母恩に対する報謝の具体相が、詳細にしかも温かい心情で説かれている。

❾谷大 ❿京都・丁子屋書店 (大門照忍)

他力眞宗

❶Ta-riki-shin-shū. ❷一巻一冊、四六判、本文三三頁 ❸存、大谷光瑞全集第五巻 ❹大谷光瑞(1876—1948)著 ❺昭和一〇(1935)

❻光寿会員に対する講演を記録したもので、他力真宗とは最上の智識へ到達する方法を明すものとの立場から、一般の布教方法を批判し、説聴共に第一義諦を指標とする必要性を強調して、仏、無上正遍智などの原語に留意しつつ、仏教の原理、成仏の論理を詳説し、とくに実相身、為物身の意義を明らかにしている。(大門照忍)

❾谷大 ❿東京・大乘社

曉烏氏説(他力の教)等

→(佛解)⑫

他力本願

❶Ta-riki-hon-gan. ❷一巻一冊、B6判、本文一一二頁 ❸存 ❹金子大榮(1881—1976)著 ❺昭和二五(1950)

❻某会社で「真宗について」と題し講演したもので、歎異抄第十二章の「本願を信じ

念仏をまうさば仏になる」が全仏教の帰趣であり、無尽の妙用を持つ所以を明らかにしたものである。本願、念仏、仏について章を設け、歎異抄を通じての教行信証領解が簡明に述べてあり、しかも真宗学の重要な諸問題が巧みに網羅してある。

❾谷大 ❿京都・全人社 （大門照忍）

他力本願（大無量壽經） ❶Ta-riki-hon-gan (dai-mu-ryō-ju-kyō). ❷一巻一冊、B6判、本文二三九頁 ❸存 ❹石上玄一郎・結城令聞(1902—)共著 ❺昭和三二(1957)

❻本書は、他力本願—大無量寿経・国訳大無量寿経(石上)・大無量寿経入門(結城)の三篇より構成されている。他力本願は、著者が大経に縁をもった由来と凡夫救済の道が本願念仏の外ないことを述べ、大経の構成と内容について、経典に即しつつ解説している。更に大経を現代語訳するにあたり、梵語・西蔵語・英訳からの和訳を参照し、経としての原型を崩さず、壮重幽玄な格調を如何にして保つことができるか、その志向の意図が語られている。大無量寿経入門は、大経の成立年代、弥陀信仰の起源、弥陀と釈迦、大経結集の歴史的事情、原典と訳本等について、懇切にしてしかも明解な論究が展開されている。尚、大経の研究註釈書を挙げ、研究者の参考としている。

❾谷大 ❿京都・法蔵館 （江上浄信）

他力本願の道 ❶Ta-riki-hon-gan-no-michi. ❷一巻一冊、A6判、本文六〇頁・図版一頁 ❸存、北安田パンフレット第五七 ❹暁烏 敏(1877—1954) 著 ❺昭和一六(1941)

❻大阪の北橋家での報恩講における講話。著者の信念であった太子崇敬の精神に基づき、念仏道と世間道の相成関係を詳しく述べ、宗祖の生涯と法蔵の発願を通して証明している。特に土徳を強調し、念仏と浄土、日本と浄土の関係を説き、そこに仏法と世法の一体性を注意し、両者がすべて報恩の実践であると結んでいる。 （大門照忍）

❾谷大 ❿石川県松任町・香草舎

田中智學先生影譜 ❶Ta-naka-chi-gaku-sen-sei-ei-fu. ❷一冊、二六〇粍×二四〇粍、本文一三〇頁 ❸存 ❹田中芳谷(1885—)監修 ❺昭和三五(1960)

❻明治・大正・昭和の三期にわたって日蓮主義を提唱し、在家仏教運動のくさわけとして活躍した、田中智学の写真による一代記である。ことに智学が布教、講演、文筆等に対して活躍した様姿を如実に知る事が出来る。またそれぞれの写真に説明が施されているので、一層智学を理解する事が出来る。 （宮川一敬）

❾立正大 ❿東京・師子王文庫

田中智學先生略傳 ❶Ta-naka-chi-gaku-sen-sei-ryaku-den. ❷一冊、A5判、本文三六一頁 ❸存 ❹田中芳谷(1885—)著 ❺昭和二八(1953)

❻明治の上下混乱した宗教政策下にあって、日蓮を信奉する智学の在家仏教運動への動機と展開を、幕末期の飯高檀林修学時代より明治・大正・昭和の四期にわたって解説している。特に智学の活躍した文筆、布教等の活動内容を詳しく述べる一方、国柱会創立に至る智学の動向とその業績を、年代別に社会的逸話等を取り入れながら説明している。 （宮川一敬）

❾立正大 ❿東京・師子王文庫

田中智學の國體開顯 ❶Ta-naka-chi-gaku-no-koku-tai-kai-ken. ❷一冊、B6判、本文四一一頁、図版八枚 ❸存 ❹里見岸雄(1897—1974) 著 ❺昭和一五(1940)

❻日蓮主義を標榜し、明治から昭和にわたって在家仏教運動を続けた田中智学が、十七歳の時勃発した西南戦争に疑問をもち、独自の研鑽の結果、明治政府の唱える神武建国の国家たらんとする叫びは、そのまま智学の在家仏教運動の活動へと展開していった。ことに日蓮主義の立場から日本国体を提唱した智学の思考について、本書は年代別にとりあげながら説明している。

❾立正大 ❿東京・錦正社 （宮川一敬）

田邊善知上人御臨終記 ❶Tanabe-zen-chi-shō-nin-go-rin-jū-ki. ❷一巻一冊 ❸欠 ❹放光庵隨喜會編 ❺昭和八(1933) ❾立正大

田野野村法泉寺縁起 ❶Ta-no-no-mura-hō-sen-ji-en-gi. ❷一巻、菊判、二頁 ❸存、香川叢書第一巻 ❹香川県編 ❺昭和一四(1939)

❻法泉寺は、三豊郡大野原町(旧五郷村)田野々の真宗の寺である。本書は、延享元年以後の作と推定され、親鸞上人の弟子藤田美多左衛門尉常清が観音菩薩の助力によって同地を見つけ、そこに伽藍を建立した由を述べる。巻末に彼を祀った鎌倉大明神と高鈴木龍王社の記も併載されている。原本は無点の巻子本で、作者は明らかでない。

❼〔参考〕『大日本寺院總覽』、『香川縣史』

❾京大 ❿香川県 （頼富本宏）

多田鼎集 ❶Ta-da-kanae-shū. ❷三巻三冊、四六判、本文一—三九〇頁、二—三一二頁、三—四八九頁 ❸存 ❹多田鼎(1877—1937)著、多田謹爾編 ❺昭和一五(1940)

❻第一巻正信偈本義、第二巻廻向論、第三巻一道録よりなっている。正信偈本義はいうまでもなく真宗教徒にとって最もなじみ深いお聖教である。著者が長年かけて、その本義を釈明せられたものが述べてある。本文を載せ、読み方・字義・大意・意訳・文科と学問的に解説してある。廻向論は仏教の中心たる廻向の本義を著者独自の角度よりきわめて精細に究明せられてある。巻末には十一篇の随想が附加されている。一道録は十二篇よりなり、著者が故人となってからまとめたものである。最初の一道録は大正四年三河蒲郡の故郷を離れて、遠く北海道札幌の地で小庵を結び修道と伝道との日を過された時の起筆であり、大正五年に擱筆されてある。以下、十一篇は修道生活における反省・自省の懺悔を録したものである。

❾竜大 ❿京都・同朋舎 （小林昭英）

多田鼎先生傳 ㊞多田鼎君小傳 ❶

Ta-da-kanae-sen-sei-den (or, Ta-da-kanae-kun-shō-den). ❷一巻一冊、B6判、本文五頁 ❸存 ❹安藤州一述、静岡同朋会編 ❺昭和三〇(1955)初版 ❻多田氏の指導を受けた静岡同朋会の依頼で、浩々洞以来の友人である著者が七章を設けて略述したもの。学生時代、千葉教院時代とその苦闘の生涯を、客観的にしかも同志の眼で観察をしており、論賛では、人物評を試み、信仰の問題では清沢氏との師弟関係を目して、プラトンとアリストテレスとのそれに擬している。 (大門照忍) ❾谷大 ❿静岡市・静岡同朋会

多田勧學臨終法話 ❶Ta-da-kan-gaku-rin-jū-hō-wa. ❷一冊、B6判、本文六頁 ❸存 ❹多田賢住述 ❺明治四三(1910)初版・昭和三四(1959) ❻多田賢住勧学は、諡号を示法院といい、天保二年に築地地中真光寺住持助教賢悟の子として生まれた。若くして天台を学び、ついで京都専修寺観阿勧学について宗学を学んだ。山本貫通氏が、八十歳で命終された多田勧学の臨終の法話を書きとめられたものである。 (小林昭英) ❾竜大 ❿東京・真光寺

多度郡屏風浦善通寺之記 ❶Ta-do-gōri-byō-bu-ga-ura-zen-tsū-ji-no-ki. ❷一巻、菊判、一八頁 ❸存、香川叢書第一巻 ❹香川県編 ❺昭和一四(1939) ❻五岳山誕生院善通寺は、善通寺市善通寺町にあり真言宗善通寺派の大本山である。弘法大師誕生の地で、寺号は大師の父、佐伯善通に由る。本書は、江戸中期以後の同寺の僧の作と推測される。大師ゆかりの御影の池、瞎目大師、八塔の土等の旧跡、及び伽監、大師の弟子等について記す。なお山家集、南海流浪記なども引用されている。 ❼〔参考〕『善通寺文書』、『東寺百合文書』第三、『吾妻鏡』第二十七、『本朝高僧傳』第十七、『全讃史』第四下、「日本名勝地誌」第八、『大日本寺院總覧』、『日本社寺大觀』 ❾京大 ❿香川県 (頼富本宏)

多度郡曼荼羅寺記 ❶Ta-do-gōri-man-da-ra-ji-ki. ❷一巻、菊判、三頁 ❸存、香川叢書第一巻 ❹浄厳(1639—1702)著、香川県編 ❺昭和一四(1939) ❻曼荼羅寺は、現在の善通寺市吉原町にある真言宗の古刹で、四国霊場第七十二番札所である。本書は、延宝九年六月、江戸湯島霊雲寺の住持浄厳が曼荼羅寺の住職宥盛の請いにより筆録したものである。高祖弘法大師を中心として当寺の縁起を述べる。単なる寺記としては教義的な表現が多い。返り点のついたかなりの長文である。 ❼〔参考〕『國譯全讃史』、『大日本寺院總覧』、『日本社寺大觀』 ❾京大 ❿香川県 (頼富本宏)

多聞院日記 ❶Ta-mon-in-nik-ki. ❷四六巻五冊・索引一冊、A5判 ❸存 ❹興福寺多聞院英俊記、辻善之助(1877—1955)校訂 ❺昭和一〇—一四(1935—1939) ❻本書は、不幸にして著者自身の筆による原本を散失してしまっている。現在、多々存するものは全て写本である。しかし、その写本は何れも誤写逸脱が甚しく、本書の利用に関しては、多大の困難があったが、此度、辻善之助が、興福寺蔵本を底本として、他本を参照し、編者の研究を加えて、原本への復元に努められたのである。本書は、興福寺多聞院の僧英俊の記するところであり、文明十年(1478)より、筆を起し、元和四年(1618)に、その筆を終えているのである。この中、永禄八年以前に少し断絶する所があるけれど、その後、慶長元年に至るまでの三十三年間は少しの欠落もない。その中には、この時代の政治・社会経済・宗教・文芸・医術・風俗・その他あらゆる方面に亙る豊富な記事がある。その記事は、中世より、近世への発展過程を窺い知る上で絶好の史料である。又、その記事行文は、大乗院寺社雑事記の如く、苦渋ならず、平板ならず、明朗にして、曲節に富み、時に難解な文字もあるが、所々に微笑を禁じ得ないものもある。その内容に至っては、大乗院寺社雑事記のほとんど大和国一国に限られて居るに反し、本書は、中央の事件にまで筆を染めている所も少なくなく、読者をして、自ら天下の大勢を熟知せしめる感がある。編者は全四十六巻を五巻にまとめている。第六巻目には、杉山博が索引をまとめている。第一巻目には、巻一—自文明十年五月至文明十年十一月、巻二—自文明十五年正月至文明十七年四月、巻三—自永正二年正月至永正四年十二月、巻四—自天文八年七月至天文八年十二月、巻五—自天文十年十一月至天文十一年十一月、巻六—自天文十二年二月至天文十三年八月、巻七—自天文十三年九月至天文十五年十月、巻八—自天文十八年五月至天文十九年八月、巻九—自弘治元年十月至弘治二年正月、巻十—自永禄八年七月至永禄九年六月、巻十一—自永禄九年七月至永禄九年十二月。第二巻には、巻十二—自永禄十年正月至永禄十年八月、巻十三—自永禄十年九月至永禄十一年六月、巻十四—自永禄十一年七月至永禄十二年正月、巻十五—自永禄十二年二月至永禄十二年十二月、巻十六—自永禄十三年正月至元亀元年九月、巻十七—自元亀二年正月至元亀二年十二月、巻十八—自元亀三年正月至元亀三年十月、巻十九—自天正二年正月至天正二年十二月、巻二十—自天正三年正月至天正四年三月、巻二十一—自天正四年五月至天正四年七月、巻二十二—自天正四年八月至天正五年三月、巻二十三—自天正五年四月至天正五年十二月。第三巻目には、巻二十四—自天正六年正月至天正六年十二月、巻二十五—自天正七年正月至天正八年三月、巻二十六—自天正八年閏三月至天正八年十二月、巻二十七—自天正九年正月至天正九年十二月、巻二十八—自天正十年正月至天正十年十二月、巻二十九—自天正十一年正月至天正十一年十二月、巻三十—自天正十二年正月至天正十二年十二月、巻三十一—自天正十三年正月至天正十三年十二月。第四巻目に於ては、巻三十二—自天正十四年正月至天正十四年十二月、巻三十三—自天正十五

年正月至天正十五年十二月、巻三十四―自天正十六年正月至天正十六年十二月、巻三十五―自天正十七年正月至天正十七年十二月、巻三十六―自天正十八年正月至天正十八年十二月、巻三十七―自天正十九年正月至天正十九年十二月、巻三十八―自天正二十年正月至天正二十年十二月、巻三十九―自文禄二年正月至文禄二年十二月、巻四十―自文禄三年正月至文禄三年十二月。第五巻目に於ては、巻四十一―自文禄四年正月至文禄四年十二月、巻四十二―自文禄五年正月至文禄五年六月、巻四十三―自天文三年至文禄三年、巻四十四―自天正八年三月至天正十年五月、巻四十五―自慶長四年正月至慶長四年十二月、巻四十六―自元和二年十二月至元和四年四月、この後、補遺として天正十九年正月の分が載せられている。この後、附録として、蓮成院記録が記されている。巻一―自延徳二年四月至延徳四年十二月、巻二―自天文元年十一月至天文二年十二月、巻三―自天正九年四月至天正十年十二月、巻四―自天正十七年五月至天正十八年二月、巻五―自天正十九年五月至慶長十九年十一月、このあと、巻二～巻五までの裏文書鈔が記されてある。

❼〔参考〕〔佛解〕⑦一一五a ❾京大・立正大 ❿三教書院 （小林明雄）

共産主義者による再発見 たくましき親鸞 ―→〔佛解〕⑫共産主義者による再発見たくましき親鸞

たゞ念佛して ❶Ta-da-nem-butsu-shi-te. ❷一冊、B6判、本文三七四頁 ❸存 ❹松原致遠(1896―)著 ❺昭和一六(1941) ❻本書は、念仏者の念仏申す態度の中に於ける真仮を明らかにし、いかにして念仏が大行としてあるのかを克明に説明しており、上・中・下の三編に分けて、上・中二編では相対の世界を破っていかにして自己自身に覚め、しかも大行といわれる念仏の中に帰入していくかを理論的に述べており、下編では日本人の仏教精神について書いている。 （上野正俊） ❾谷大・竜大 ❿京都・丁子屋書店

タノム助ケタマヘ義 ❶Ta-nomu-tasu-ke-ta-ma-e-gi. ❷一巻一冊、菊判 ❸欠、眞宗論題叢書第五巻 ❹雲山龍珠(1872―1956)著 ❺昭和八(1933) ❾谷大 ❿樹綱會

たれにもわかるハンニャ心経 ❶Ta-re-ni-mo-wa-ka-ru-han-nya-shin-gyō. ❷一冊、B6判、本文二六三頁 ❸存 ❹上野陽一(1883―1957)著 ❺昭和二九(1954) ❻ハンニャ心経を通俗平易に解説したもの。筆者は哲学専攻の出身であるが、かつては産業能率研究所を主宰し、その方面の権威である。心経解釈も空の教えを心の衛生に関連させるなど独得な所がある。まえおき、空の教え、心の衛生、あとづけの各部からなり、末尾に読者との質疑応答がのっている。 （松本晧一） ❾駒大 ❿東京・大法輪閣

誰れにも解る 佛教美術鑑賞の手引 ❶Da-re-ni-mo-wa-ka-ru, Buk-kyō-bi-jutsu-kan-shō-no-te-biki. ❷一冊、B6判、ロ絵八頁・本文八八頁 ❸存、仏教文庫14 ❹岡部長章著 ❺昭和二七(1952) ❻本書は、仏教美術の概要を心得させようとして書かれたもので、まず仏教文化の流れのあらましを明かし、寺院建築・仏像・経典・図書・瓦・面について略説する。 ❾大東出版社 ❿東京・東成出版社

ダルマパーラの生涯 ❶Da-ruma-pā-ra-no-shō-gai. ❷一冊、B6判、本文一一八頁・略譜五頁 ❸存、仏教文化叢書第三巻 ❹ビクシュ・サンガラクシタ著、藤吉慈海(1915―)訳 ❺昭和三八(1963)初版 ❻ビクシュ・サンガラクシタ著『故アナガーリカー・ダルマパーラ師の略伝』の和訳である。ダルマパーラは一八六四年にセイロンのコロンボに生まれ、一九三三年にサールナートで寂した。彼は現代における最も偉大な人の一人であった。彼は、数世紀にわたって不振の状態にあった仏教徒の伝道的精神を復興した。たとえばセイロンではクリスト教の宣伝によって、仏教は殆んど死滅した。そして、これを喰いとめ、この島や他国の仏教徒に、新しい伝道意欲の霊感を与えたのは彼であった。彼は日本の偉大な礼讃者であり、愛好者であったので、日本を四回も訪れた。彼は故国セイロンやインドに帰るごとに、日本人の進歩性を模範とすべきことを明言した。 （塚本啓祥） ❾立正大 ❿京都・樹昌院

和漢英巴対照 ダンマパダ(法句経) ―→〔佛解〕⑬和漢英巴対照ダンマパダ(法句経)

大衆禪 いろは碧巌 ❶Tai-shū-zen, I-ro-ha-heki-gan. ❷一巻一冊、四六判、本文五一六頁 ❸存 ❹清泉芳巌著 ❺昭和九(1934) ❻禅が支那の俗語でかたられるものならば、また日本の俗語をもっても同じく語られなければならない、という見地に立って、こどもたちが遊ぶ「いろはかるた」の各句を主題とし、『碧巌集』に摸して「垂示」「挙す」「頌」の型式をもって四十八則を提唱した通俗的な禅話集で、説法教化に役立つ豊富な題材がもり込まれている。 （田中良昭） ❾高大・駒大・大正大 ❿東京・大東出版社

大衆 禅画入門 ❶Tai-shū, Zen-ga-nyū-mon. ❷一巻一冊、B5判、折本、本文九三頁 ❸存 ❹大塚洞外(1891―1964)著 ❺昭和三六(1961) ❻禅画を広く大衆に普及したいという著者の意図にもとづき、前篇には、南画の常識として、禅画の大意・運筆・目的・妙味・価値・稽古用品から、蘭竹菊梅の四君子と山水樹木の書き方を示し、後篇には、禅画の入り口として、禅画の入門順次・人物・顔面・運筆法の書き方と参考図二十点を掲載した折本型式の禅画に関する入門書である。 （田中良昭） ❾駒大 ❿東京・鴻盟社

大衆と共に ❶Tai-shū-to-tomo-ni.

❷一巻一冊、A5判、本文四六頁 ❸存、暁烏敏全集第二部第九巻 ❹暁烏 敏(1877—1954) 著、暁烏敏全集刊行会編 ❺昭和三三(1958)初版
❻昭和二十三年六月から二十四年一月まで「同歸」によせた十一の論文が「大衆と共に」で、小説・宗教の高級性と大衆性との相補関係を論じ、以下、戦争の問題、御文の「御免」の語意、世相百般への諷刺、済度と降伏のニュアンス、人と動物の比較、汝自当知と皆当往生の意義、など老境の著者が叡智あふれる批判精神を示している。
❾谷大 ❿石川県松任町・香草舎

大正新脩 大藏經 索引

(大門照忍)

❶Tai-shō-shin-shū, Dai-zō-kyō, saku-in. ❷四八巻(予定)四九冊、四六倍判、四〇〇—五〇〇頁(平均) ❸存 ❹大藏經學術研究會編 ❺昭和三八(1963)
❻大正新脩大蔵経の索引作成は、つとに、大正新脩大蔵経刊行会の手でくわだてられ、昭和十八年から、阿含部、目録部、法華部各一冊が刊行された。小野玄妙博士を中心に進められた、この初期の索引刊行事業は、博士の急逝と、太平洋戦争下の窮乏のために、物資の上でも、従事者の面でも、中止のやむなきにいたったのである。
昭和三十一年、仏教系諸大学の間で、あらためて、大正新脩大蔵経のインド・中国・日本撰述部全八十五巻の索引刊行が計画され、大谷大学・高野山大学・駒沢大学・大正大学・立正大学・竜谷大学の六大学が、大蔵経学術用語研究会を組織し、その作製要項をあらためて検討し、その刊行に着手したのである。
小野玄妙博士の手がけた如上の索引が、新しい刊行計画のベースになったことはいうまでもない。その索引は、項目索隠・音次索隠・字画索隠からなり、項目索隠では、用語を六十四項に内容分類をなし、音次索隠では、五十音順に用語を配列し、字画索隠では、用語の首字の字画順索引をつくっている。
大蔵経学術用語研究会による索引の製作にあたっては、音次索引・分類項目別索引、そして検字索引の三索引をたて、検字索引には、字画索引に並べて、漢字の形態から検索する、四角号碼索引を付して、国際性をもたせようと企図されている。用語の採取は、「漢訳大蔵経にあらわれた学術用語の研究」をテーマとする、総合研究の方法で、担当各大学が大正新脩大蔵経各巻の頁ごとに五十語の基準で選択し、これを、五十の分類項目に配分している。五十項目は、新版索引のインド部を中心に採用され、各項目ごとに数個の細目がおかれている。それを一覧すると左記のごとくである。ちなみに、下段に、旧六十四項目を列ねておく。

五十項目

1教説
a通説 b三蔵
c九分教
d十二分教
2教判
a通説 b大小乗
c一三乗
d各説
3教理
a通説 b各説
4法相
a通説 b色法
c心法
d非色非心法
5惑業
a通説 b惑
c業 d苦
6行位
a通説
b凡夫位
c声聞縁覚位
d菩薩位
7戒律
a通説 b各説
8禅観
a通説 b禅定
c観法
9世界
a通説 b天
c人 d地獄
e餓鬼 f畜生
g阿修羅
hその他
10佛
a通説 b徳性
c佛身 d佛土
e佛名 f諸尊
11人名
a比丘比丘尼
b優婆塞優婆夷
c仙人 d外道
e菩薩
fその他
12教派
a学派 b宗派
13教団
a通説 b法規
c僧階
dその他
14寺院
a通説 b各説
15信仰
a通説
b各種信仰
16儀礼
a通説 b法要
c作法
d僧衆行儀
17事相
a通説 b作法
c四度加行
d護摩 e灌頂
fその他
18曼荼羅
19印契
a通説 b各説
20陀羅尼
a通説 b真言

六十四項目

1世界
通用、浄土、天界、地界、地獄
2諸法
通用、色法、心法、非色非心法
3惑業
4性相
5佛
通用、徳性、身相、佛名
6衆生
通用、生死、自我
7菩薩
通用、菩薩名
8声聞縁覚
通用、縁覚名、声聞名
9天
通用、天神名
10鬼
通用、鬼名
11人
通用、種姓、称謂、人名、職業
12教法
通用、三蔵、十二部経
13教派
通用、乗名、教名、部派名、教派名
14戒律
通用、種類、細目、持犯
15禅定
通用、種類
16解行
17行位
通用、凡夫行位、声聞行位、縁覚行位、菩薩行位
18信仰
19実修
20得益
21法要
22法式
23事相
24行法
25曼荼羅
26印契
27真言
28行儀
29寺院
通用、寺名
30神道
31外教
通用、婆羅門、思想
32呪術
33天文
通用、日月星宿、気象
34時節
通用、時分、歳月
35地理
通用、地名、山

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com